知ろう！文化財 vol.2

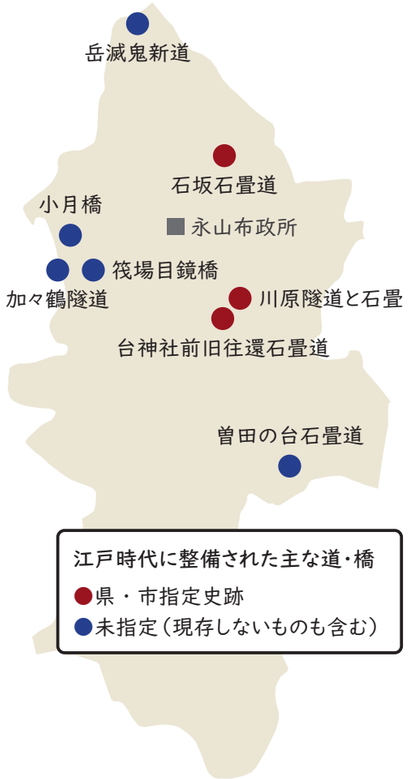
問文化財課文化財管理係
☎㉔7171（市役所別館2階）

江戸時代、日田は幕府の直轄地（天領）として九州各地の天領支配の拠点となり、豆田町や隈町には多くの商人が集まるようになりました。

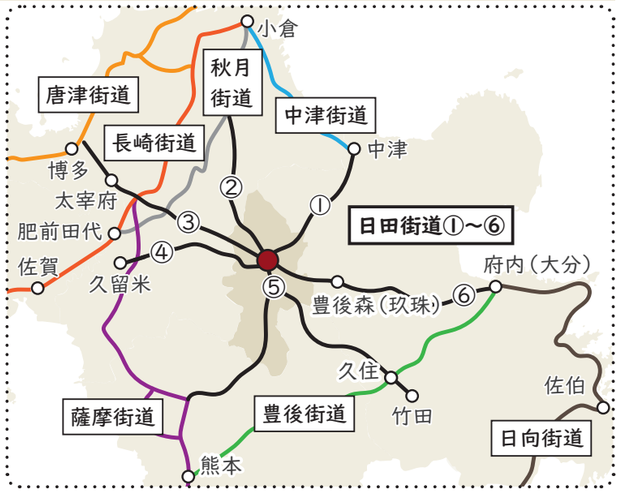
なかでも、醤油や酒造りなどの醸造業や精蝋業、金融業などを営んでいた豪商は、代官所の年貢収納を担うことから「掛屋」と呼ばれ、莫大な利益を上げました。この掛屋をはじめとした日田の人たちは、商業発展のため、山間部の新道や橋の建設に尽力。永山布政所の代官も交通網の整備を命じ、当時、各地へ向かう6本の街道（日田街道）が結ばれました。利便性の向上によって人の往来が活発となり、日田は大いに繁栄しました。

こうした発展の礎となった石畳道や石橋、隧道（トンネル）などは、現在もなお、各所にその名残を留めています。

江戸時代の道



日田を中心とした江戸時代の陸上交通路



①宇佐・中津方面 豊前国宇佐宮路・中津城路
石坂石畳道【県指定史跡】

②彦山・小倉方面 彦山路・小倉城路
岳滅鬼新道

③筑前・福岡方面 筑前国路・福岡城路　小月橋

④筑後・久留米方面 筑後国高良山路・久留米城路
加々鶴新道、筑場目鏡橋

⑤肥後・阿蘇熊本、竹田方面
肥後国阿蘇山路　隈府路、熊本城路
直入郡岡城路　台神社前旧往還石畳道【市指定史跡】、曽田の台石畳道

⑥玖珠方面 玖珠郡森営路
川原隧道と石畳【県指定史跡】

地元住民に大切に守られ、今も当時の姿を残す石畳道（指定文化財）をご紹介します

今なお残る石畳道

訪れる際は、滑りやすい場所や車両が通行する場所もありますので、十分にご注意ください。

伏木公園 約10分

石坂石畳道（伏木町・市ノ瀬町）

【大分県指定史跡（昭和62年3月27日指定）】

日田代官所と中津・宇佐四日市を結ぶ道路の一部で、全長は約1.26㎞。市ノ瀬町から伏木町まで、高低差約200mの山中に通じています。

約2.2mの道幅に隙間なく石が詰められており、中央部は2～3mおきに段が設けられ、歩きやすい緩やかな勾配。外側の丸石には、牛や馬が足の爪をかける工夫がされるなど、技術の高さがうかがえます。

嘉永3（1850）年に完成したこの道は、隈町の掛屋・京屋山田常良が周防（現在の山口県）の石工を招いて工事されました。

現在は、地元住民による「日田往還石坂石畳道ウォーキング大会」をはじめ、石畳道の価値を伝える講演会や清掃活動など、積極的な保存・継承活動が行われています。

見どころ① ＼石畳道の中間付近にあり！／　工事の詳細な経緯が廣瀬淡窓によって記された「石阪修治碑」

川原隧道と石畳（天瀬町女子畑）

【大分県指定史跡（昭和51年3月31日指定）】

日田代官所と玖珠を結ぶ道路の一部で、西国筋郡代・塩谷大四郎の命令で造られた長さ約48mの隧道と、隧道に繋がる石畳道。

隧道内部は天井が崩れにくいように、長さ1.6mの石材を「ハ」の字に組み合わせて補強するという、高い技法で造られました。

隧道入口の石柱には、嘉永7（1854）年8月に廣瀬久兵衛が石材を寄付したこと、中国地方の石工・助二郎の名前が刻まれています。（熊本地震で一部が崩れたため、現在は立入禁止）

「土木遺産」に認定されるほどの“当時の技術力”

川原バス停 約20分

見どころ②

旧台小学校 約5分

台神社前旧往還石畳道（天瀬町女子畑）

【日田市指定史跡（平成28年3月25日指定）】

日田代官所と竹田・熊本方面を結ぶ道路の一部で、西国筋郡代・羽倉権九郎の時代に女子畑から出口まで整備されたといわれています。現存する石畳道の全長は約41mで、地元住民の生活道路として利用されています。

見どころ③ 台神社の森が醸し出す静かな雰囲気と、歴史的な趣を感じる石畳道